

一般質問
榎尾 幸雄
(「ふたつの森にも所属しない賢」)

世界遺産登録に向けて
の檀原市の今までの取
組及び今後の取組

問 世界遺産登録を目指してから7～8年が経つ。奈良県には既に3つの世界遺産登録があるため、登録は非常に難しいと思っていた。藤原京跡でイベントを実施するなどし、啓発はしているものの世界遺産登録は簡単には実現できない。2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決まったが、これは多くの方が様々なところで頑張ってきた結果だと思ふ。市として世界遺産登録に向けてどのような取り組みをしてきたのか。今後、どのような取り組みをするのか。

答 「飛鳥・藤原の宮都と関連資産群」は、平成19年度に世界遺産暫定リストに登録された。平成20年度に県、桜井市、明日香村とともに世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会を設立し、推薦書原案作成に向けた準備を始めてい

る。盛り上がりに欠けるのではという意見もある中、イベント等も開催している。推薦については、ユネスコへの顕著な普遍的価値を主張する推薦書原案と構成資産の保存管理計画の策定が何よりも必要で、現在、その原案となる個別管理計画書の策定に鋭意努力している。策定には、桜井市、明日香村の担当者との協議を進めている。以前とは違い、今は、世界遺産登録申請は1国1つに限られており、まず国内での競争に勝たなければならなく、これが一番の課題と考えている。万全を期して計画書を作成し、勝ち取る努力をしたい。

問 1国1つの申請となると、今まで以上に厳しい状況となる。桜井市、明日香村とも協力するというがどのようなチームを作るのか。盛り上げる方法はある。本市では毎年畝傍山一円クロスカントリーを実施しているが、中南和で大きなマラソン大会を開催してはどうか。大阪マラソンや奈良マラソンを見ると大変盛り上がりがある。本市を出発し、桜井、大宇陀、明日香、高取を通るようなコースで取

り組んでみてはどうか。

答 県では、奈良マラソンの盛況な開催に合わせ、中南和の活性化を図る意味から市町村駅伝の開催を協議している。本市としても世界遺産登録を目指す上で、国内はもとより広く世界に情報発信するためフルマラソンやハーフマラソンが開催できればとは思ふが、マラソンの開催には、地形的な問題、踏切問題、沿道対策、警察協議等々の問題が山積している。開催するには、市内及び市町村との連携や調整が必要と考える。

問 今までホテルについて言ってきたが、飛鳥川でもやっとなホテルが見られるようになった。本市には、国蝶で、絶滅危惧種だと言われるオオムラサキを育成されている有名な方がいる。この方は、昆虫館ができたことを非常に喜んでおられ、いつかは、高取、明日香、檀原、桜井にかけオオムラサキを飛ばしたいという夢を持たれている。こういったことも視野に入れ取り組んではどうか。

答 昆虫館では、その方の協力を得、昆虫館周辺にあるオオムラサキの幼虫の餌となる

エノキに網をかけ、鳥に捕食されない措置をし、幼虫を育て、その後、放蝶展示している。ただ、自然界での繁殖は、現時点では難しい。幼虫のときはエノキの葉を食べ、成虫のときはクヌギ等の樹液を吸うわけだが、こういった環境となる里山がほとんどない。里山をつくるには土地の所有者、ボランティア等の協力が必要で、現状では一朝一夕に整備することは困難である。今後、研究をしていきたい。

問 マラソン大会は簡単にできるものではないが、運動公園から桜井方面へ向かえば線路を渡る必要もなく、取り組むのであればそういったことも踏まえ考えてもらいたい。また、オオムラサキについても、里山がないので再生ができないということは言えないと思う。本市が中心となりエノキやクヌギを植えれば、20年～30年後には不可能ではない。長い間汚れていた川も、きれいな川になっているわけで、今はできなくても先にはできる。本市が中心となり近隣を巻きこみ、やる気を持って取り組んでもらいたい。世界遺産登録に向け今後どのよ

うに取り組むつもりか。市長の考えは。

答 登録に向け、啓発として情報発信をしているが、大きく前進している機運がないのは事実である。我々の地域の構成資産は見えるところには残っていないという特徴があり、調査も1割ほどしか進んでいない。これを理解してもらわないと世界遺産には届かず試行錯誤している。桜井も明日香も一緒という思いで取り組んではいるが、行政上、市町村の境界部分への対応が遅れている場所もある。そういった部分への予算も考えながら、取り組むたい。



「飛鳥・藤原」を世界遺産に！

水道
水

問 47年と約4千億円という膨大な年月と費用をかけ、やっと大滝ダムが完成した。貯